

陳情第143号	受理年月日	令和5年3月13日
付託委員会	保健福祉委員会	
件名	学校や園でマスクを外した子供、保護者、職員に対して、偏見を持たないための正しい情報の周知について	
要旨	<p>今年の3月13日から、マスク着用は個人の判断とする政府の発表があった。しかし、周囲の声を聞くと、マスクをしていたから風邪を引かなかった、マスクを外している人には近づきたくない、外している人から感染するかもしれないなど、マスクの効果について、いまだに正しい知識を持っていない人が大多数のように思う。</p> <p>昨年3月、国立感染症研究所が新型コロナウイルスの主な感染経路は、空気感染(エアロゾル感染)であると発表し、その後、マスクは屋外では不要、屋内でも会話がなければ不要など、厚生労働省の方針が変わった。</p> <p>それまで、飛まつ感染、接触感染と思われていたが、現在はどうか。3年間の検証では、飛まつでも、接触でも、感染する科学的根拠は明らかにならなかった。日本では、きちんと検証もせず、スーパーコンピューターの飛まつ実験だけで、マスクの効果をうたっている。この実験は、感染拡大において、世界では、全く信用に値しない実験にもかかわらず、それによって、多くの人々が、時代遅れの感染予防対策を続けてきた。</p> <p>マスクは、購入時の説明に書いてあるとおり、ウイルスを防ぐように作られていない。問題は、多くの人々が、いつまでも時代遅れの感染予防対策のままで、それに従わない人に対して、偏見を持ったり、対策の強制をしたりすることである。</p> <p>マスク着用は個人の判断と言っているが、行政が正しい判断をするための情報提供を行わないことは、さらに問題だと思う。</p> <p>特に、高齢者の方は、スマートフォンで情報を調べたりするのが苦手である。このままだと、マスクをしないと近所の高齢者と交流もできない状況になりそうである。そして、トラブルやクレームのもとにもなる。クレームを恐れて、行事ではマスク着用が当たり前になってしまうのではないかと危惧している。</p>	

については、マスク着用に、感染させる、感染させないという効果が明らかではないこと、外しても感染させるという根拠はないということ、科学的な事実として、保育園や幼稚園等に対して、きちんと広報していただきたい。